

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|-----------------|---|------|-----|-------|----------------------|------------|---|--|----------------------|------|----|
| 科目区分 | 専門教育科目 | 授業科目名 | まちづくり景観 | | | 科目コード | 26L302 | 担当者 | 平山 広孝 | | | 担当形態 | 単独 |
| 対象学科・コース | 生活創造学科 地域未来創生コース | 配当年次 | 2年次 | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 1 | 必修・選択の別 | 選択 | 免許・資格要件 | | | |
| 授業形態 | 講義 | 履修条件 | | | | | | | | | 教育職員免許法施行規則に定める科目区分等 | 科目区分 | |
| 実務の経験を有する教員担当科目 | 該当 | 実務の経験内容及び科目との関連 | 長崎市・景観研究所/NULLの所長として、長崎の景観まちづくり活動に長年携わった経験を活かし、景観を通して具体的な地域課題への対応の実例を交えながら、今後求められる地域のまちづくりについて実践的な視点から講義する。 | | | | | | | | 科目に含めることが必要な事項 | | |
| 授業の主題 | 「景観」とは単なる眺めではなく、地域の人々の営みや歴史が積層したものである。長崎の独特な地形や歴史的背景が生み出した景観の価値を学び、持続可能なまちづくりのために必要となる施策の形成能力を養う。 | | | | | | 課題等への対応(フィードバックの方法等) | | ミニレポートについては、次回授業時に全体に向けた講評を行い、優れた視点を共有する。質問等に対しては、授業内での回答または個別に対応することで学習の定着を図る。 | | | | |
| 授業の方法 | スライドや映像資料を用い、長崎や国内外の景観まちづくり事例を紹介する。講義形式を基本とするが、受講生の気づきを促すための対話や、自身の考えをまとめるミニワークを取り入れ、主体的な学びを支援する。 | | | | | | アクティブ・ラーニングの実施方法 | | 景観写真や事例を用いた課題探究型のミニワークを実施する。身近な景観について自身の視点で評価・考察し、意見交換を行うことで、景観を見る眼を養う。 | | | | |
| 回数 | 授業計画 | | | | | | | | 事前・事後学修 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス・「まちづくり」「景観」とは何か:「まちづくり」「景観」の定義と、まちづくりにおける景観の重要性について学ぶ。 | | | | | | | | 事前: 身近な街並みを観察し、気になる景観を探しておく。 事後: 講義内容を整理する。 | | | | |
| 第2回 | 長崎の歴史と景観(長崎開港前から戦前まで): 長崎の基本的な地勢、1571年の長崎開港からもたらされた海外交易による近世以降の繁栄等について学ぶ。 | | | | | | | | 事前: 長崎の古地図や資料を閲覧し、地形の特徴を確認する。 事後: 講義の要点をまとめる。 | | | | |
| 第3回 | 長崎の歴史と景観(戦後から現代まで): 戦後復興都市計画、長崎特有の密集斜面市街地の形成、ナガサキアーバンルネッサンス2001構想などの経過を学ぶ。 | | | | | | | | 事前: 身近な町並みのなかで、戦後に実施された政策との関係を考察する。 事後: 講義内容を考察しまとめる。 | | | | |
| 第4回 | 景観を守るルールと仕組み: 景観法や長崎市景観条例など、美しい街並みを守り育てるための仕組みを概観する。 | | | | | | | | 事前: 景観規制に関するニュースや話題に関心を持つ。 事後: 景観を守るルールの意義をまとめる。 | | | | |
| 第5回 | 歴史的景観とまちづくり: 長崎居留地や長崎町家など、歴史を生かしたまちづくりの事例と課題を学ぶ。 | | | | | | | | 事前: 長崎居留地や長崎町家について調べる。 事後: 歴史を生かしたまちづくり施策の具体例について考える。 | | | | |
| 第6回 | 日本をリードする長崎市の夜間景観: 「世界新三大夜景」に選ばれた長崎の実例をもとに、夜間景観形成の意義や手法、効果を学ぶ。 | | | | | | | | 事前: 街の灯りや夜景について意識して観察する。 事後: 講義で得た知識を整理する。 | | | | |
| 第7回 | これからの歴史・景観まちづくり: 人口減少社会における空き家や歴史的建造物保存などの問題や国の最新の動向など、まちづくりと景観の今後の展開を考える。 | | | | | | | | 事前: これからの日本や長崎市が重点的に取り組んでいこうとしている施策を調べる。 事後: 持続可能なまちづくりについて考察する。 | | | | |
| 第8回 | 総括・最終課題の作成: 講義全体の振り返りを行い、長崎の景観まちづくりに関するレポートを作成・提出する。 | | | | | | | | 事前: これまでの講義ノートを見返し、最終課題の構想を練る。 事後: 課題を完成させる。 | | | | |
| | | | | | | | | | | 事前・事後学修時間(分/授業1回) | 180分/授業1回 | | |
| 教科書 [書名/著者名/出版社] | 長崎市・景観研究所15周年記念誌/長崎市・景観研究所/自費出版 | | | | | | | 受講生へのメッセージ | | 長崎の産業構造が造船(二次産業)や漁業(一次産業)から、観光(三次産業)へとシフトしています。観光資源としての「景観」は極めて重要ですが、景観を形成するのは目に見える建築物や工作物ではありません。実はその奥にある「人々の営み」を理解する必要があります。そこで暮らす人々のあらゆる活動が景観に繋がっていることを理解していただき、これからの地域まちづくりについて一緒に考えたいと思います。 | | | |
| 参考書 [書名/著者名/出版社] | 長崎市景観計画/長崎市/2011年、環長崎港夜間景観向上基本計画/長崎市/2017年、長崎市歴史的風致維持・向上計画/長崎市/2020年 | | | | | | | | | | | | |

| 評価基準 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|-----------------|---------------|---------------|------|-----|------|------|----------|--------------------------------------|--------------|------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 学修成果の大分類 | 学修成果の中分類 [10の力] | 学修成果の配点比率 (%) | 評価方法の配点比率 (%) | | | | | 学修成果の小分類 | | | 尺度 | | | | | |
| | | | 定期試験 | 臨時試験 | 提出物 | 発表内容 | 受講態度 | 実習評価 | 学修成果の到達目標 | 修得する能力 | 評価方法/評価指標 | レベル5 (S : 100~90%) | レベル4 (A : 89~80%) | レベル3 (B : 79~70%) | レベル2 (C : 69~60%) | レベル1 (F : 59%以下) |
| 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） | 尽心 | ① 学習意欲 | 20 | | | | | 20 | 景観まちづくりに対し主体的に関心を持ち、自分事として考えることができる。 | 探求心 | 授業への参加姿勢、ミニワーク等の取り組み状況 | 授業に極めて能動的に参加し、景観に対する深い関心と探求心が認められる。 | 授業に能動的に参加し、景観に対する関心と探求心が認められる。 | 授業に真面目に参加し、景観に対する関心が認められる。 | 授業への参加はおおむね真面目だが、関心や探求心がやや希薄である。 | 授業への参加が消極的であり、関心や探求心が認められない。 |
| | | ② 規律性 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 知識・技能 | ③ 知識 | 20 | | | 20 | | | 長崎の景観の特徴や歴史的背景、まちづくりの手法について理解し説明できる。 | 専門的知識、理解力 | ミニレポート | 景観に関する知識を深く理解し、それらに関連付けて論理的に説明できる。 | 景観に関する知識を正確に理解し、説明できる。 | 景観に関する知識をおおむね理解し、要点を説明できる。 | 景観に関する知識の理解に一部曖昧な点があるが、最低限の説明はできる。 | 景観に関する知識の理解が不足しており、説明できない。 |
| | | ④ 技能 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 思考・判断 | ⑤ 情報活用能力 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ⑥ 課題解決力 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 表現 | ⑦ 言語活用能力 | 60 | | | 60 | | | 景観に関する考察を論理的に構成し、レポートとして適切に表現できる。 | 論理的思考力、文章表現力 | 最終レポート | 独自の視点や考察が含まれ、論理構成や文章表現が極めて優れている。 | 考察が含まれており、論理構成や文章表現が優れている。 | 授業内容を踏まえて記述されており、論理構成や文章表現が標準的である。 | 記述内容に不足はないが、論理構成や文章表現に改善の余地がある。 | 記述内容が不足しており、論理構成や文章表現が不適切である。 |
| | | ⑧ コミュニケーション力 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実践 | ⑨ 主体性 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ⑩ 協働性 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 100 | | | 80 | | | 20 | | | | | | | | |